

障害学生修学支援のための大学間連携

—「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」発足—

岡田 菜穂子
須藤 邦彦
田中 亜矢巳
柳下 雅子
金子 博

要旨

障害等のある学生への合理的配慮の提供のために各高等教育機関にて様々な取り組みが実施されるなか、地域での障害学生支援のための連携事業が展開されている。本稿では、障害学生支援に関する全国・地域規模のネットワーク事業の一部を紹介するとともに、「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」の発足状況を説明し、高等教育における障害学生修学支援のためのネットワーク形成の意義について言及したい。

障害等のある学生のための合理的配慮の実施に際しては、何が合理的なのかの判断に悩むことも多い。また、支援ニーズによっては一大学では対応が難しいことも起こりえる。より効果的・実効的な支援を実施するために、地域の支援リソースに関する情報を集約したり、個人情報を秘匿しつつ支援に関する情報共有を行う体制を整えておくことに大きな意義がある。

キーワード

高等教育機関, 障害学生, 修学支援, 大学間連携

1 はじめに

平成 28 年度から「障害者差別解消法」が施行されたことを受け、高等教育、障害等のある学生（以下、障害学生）への「合理的配慮」の必要性が高まっている。各高等教育機関では、支援体制の整備や、支援拠点の設置、支援担当者の配置、学内規則の策定等が進んでいるが、一方でひとつの教育機関にとどまらないネットワーク整備の動きもある。

障害学生支援関連の地域連携ネットワークの必要性は、全国的にも共有されており、文部科学省「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」や、中四国地区を中心とした「UE-NET（教育のユニバーサルデザイン化ネットワーク）」等も始動している。ま

た都道府県単位で、障害学生支援のためのネットワーク整備を進めている例もある。障害学生支援のためのネットワークは、全国的なものから地域を限ったものまで、規模も様々である。また、相談事業を中心とするものから、支援実施のための共同を行うものまで、活動内容にも幅がある。

本稿では、現在活動を展開しているネットワーク事業のうち、全国的なものや山口大学が参画しているものを概観するとともに、山口大学に事務局を置く「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」の立ち上げ状況と、ネットワーク事業の意義や今後の展開について説明したい。

2 全国の障害学生支援関連ネットワーク

近年では、高等教育機関における障害学生支援のための様々なネットワークが整備され、活動を展開している。まずは、代表的なネットワーク事業とその特徴を整理しながら、山口大学の参画状況について紹介しておきたい。

なお、各ネットワークの説明については該当するネットワークのホームページ等を参考に、一部表現を引用したり、筆者がまとめて記載している。

2.1 日本学生支援機構 障害学生修学支援ネットワーク

高等教育機関における障害学生支援修学支援体制の整備を目的として、日本学生支援機構が関係機関と連携して整備された、相談事業を中心とするネットワーク。大学等で支援を担当する教職員が、障害学生支援や学生の対応について、拠点校となっている大学や協力機関に相談できる仕組みを採っている。

➤ 拠点校

札幌学院大学，宮城教育大学，筑波大学，富山大学，日本福祉大学，同志社大学，関西学院大学，広島大学，福岡教育大学

➤ 協力機関

筑波技術大学，国立特別支援教育総合研究所，国立障害者リハビリテーションセンター

➤ 参考ホームページ

https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shien_network/index.html

2.2 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

2004年10月に全国の高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生の支援のために立ち上げられた全国的なネットワーク。聴覚障害のある学生の情報保障をはじめとした支援に関する教材の作成，関連セミナーや研修会等の開催，メーリングリストによる情報の配信等を行っている。山口大学学生特別支援室は，準会員と

して参画している。

➤ 事務局：筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

➤ 正会員・機関：正会員 32 機関

➤ 準会員大学・機関：56 大学・機関（2020年1/7 現在）※山口大学学生特別支援室を含む

➤ 参考ホームページ

<http://www.pepnet-j.org/>

2.3 高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP)

文部科学省の「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」として、代表校である京都大学が中心となり、大学等、文部科学省、日本学生支援機構、支援関連機関のほか、企業・地方自治体、初等中等教育機関などの地域を形成するコミュニティと連携して障害学生支援のためのプラットフォームを形成することを目指すネットワーク事業。相談事業（体制整備促進）、地域ネットワーク形成事業（高等教育機関間の情報・資源共有促進）、連携促進事業（高大連携・社会移行支援促進）を主な事業としている。

山口大学は、協力校の一つである。

➤ 事務局：京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム，高等教育アクセシビリティプラットフォーム 事務局

➤ 代表校：京都大学

➤ 連携校：広島大学

➤ 協力校：大阪大学，岡山大学，関西大学，関西学院大学，京都産業大学，島根大学，同志社大学，鳥取大学，長崎大学，広島女学院大学，山口大学，立命館大学，和歌山大学（2018年8月現在）

➤ 参考ホームページ

<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/>

2.4 教育のユニバーサルデザイン化ネットワーク (UE-Net)

広島大学アクセシビリティセンターが事務局を担う、中四国地区を中心とした地域ネットワーク。「ユニバーサルデザインを志向する教育機関・民間企業・行政機関・福祉機関が連携することにより、地域の初等・中等・高等教育のユニバーサルデザイン化を推進し、障害の有無に関係なく多様な児童・生徒・学生がその可能性を開拓できる修学環境・教育環境を育成することを目的として設立された」(ホームページより引用)

山口大学は、会議や研究会に参加するとともに、他大学と共同でサポートや支援者育成を行ったり、ネットワークのリソースを学内支援のために活用するなどしている。

- 事務局：広島大学アクセシビリティセンター
- 会員：広島大学，山口大学，山口県立大学，岡山大学，広島文教女子大学，鳥取大学，島根大学，広島県立大学，徳島大学，広島県立視覚障害者情報センター，東広島市，株式会社 LITALICO
- 参考ホームページ
<https://ue-net.jp/web/>

2.5 一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD Japan)

準備期間を経て、2014年10月に発足した協議会。年次大会やセミナーの開催、協議会誌「高等教育と障害」の発行など、全国規模の活動を行っている。

「高等教育機関における障害学生支援に関する相互の連携・協力体制を確保するとともに、実践交流を促し、障害学生支援に関する調査・研究及び研修・啓発を行って実務への還元を図り、もって大学における障害学生支援の充実並びに学術研究の発展に寄与することを目的とする事業」(該当HPより引用)としており、特に支援に関わる教職員が支援に関する実践や研究成果を報告できる場になっている点が特徴である。

- 所在地：東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野 3号館 311号室
- 会員校：100法人 (2019年6/12現在)
※山口大学を含む
- 参考ホームページ
<https://ahead-japan.org/index.html>

2.6 アクセシビリティリーダー育成協議会

産学官が連携し、アクセシビリティを推進する人材「アクセシビリティリーダー」の育成を目指して育成プログラム(ALP)を実施・運用している協議会。広島大学アクセシビリティセンター内に事務局を置き、会員大学等と連携して、アクセシビリティ教育課程やAL資格認定、研修合宿等を実施している。

山口大学は、平成26年に会員団体となり、以降、学生や教職員のアクセシビリティリーダーを輩出してきた。

- 事務局：広島大学アクセシビリティセンター内
- 会員団体：茨城大学，富山大学，長岡技術科学大学，大阪教育大学，大阪大学，関西学院大学，神戸大学，鳥取大学，岡山大学，広島大学，広島国際大学，広島文教女子大学，山口大学，香川大学，高松大学，徳島大学，九州大学，長崎大学，琉球大学，日本学生支援機構
- 協力団体：日本マイクロソフト株式会社，富士通株式会社，株式会社イフ，東広島市 (2020年1/1現在)
- 参考ホームページ
<https://al-pc.jp/web/>

以上、障害学生修学支援に関わる6つのネットワーク事業を紹介した。いずれも特徴があり、全国規模のものとしては、日本学生支援機構の相談事業、HEAP、AHEAD Japan、PEPNET-Japanがあるが、AHEAD Japanは研究を含む活動を、PEPNET-Japanは聴覚障害を中心とした活動を行っている。また、各ネット

ワーク間での連携も見られ、HEAP は AHEAD Japan と連携して事業展開しており、さらに HEAP の協力校である広島大学アクセシビリティセンターは、中四国を中心とした地域連携ネットワーク UE-NET を HEAP の活動と連動させて展開している。

これら以外にも、大学コンソーシアム等と連携して県単位で支援のためのネットワークを形成する動きや、高等教育機関が集中する関西地区での支援のための連携ネットワークなどもある。そこで、次に山口県の動向として「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」の発足状況を報告したい。

3 「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」の発足

文部科学省による「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」の推進や中四国を中心とした地域ネットワーク UE-NET の事業の強化が図られるなか、山口大学学生特別支援室では、山口県内の他大学から障害学生修学支援に関する問い合わせを受ける機会が徐々に増えてきた。

このような背景を受けて、山口大学学生特別支援室が中心となり、障害学生の修学支援に関する県内の大学間連携ネットワーク発足に至った。以下に、発足状況を報告する。

3.1 準備委員会の開催

山口大学学生特別支援室から県内の国公立大学に声をかけ、日常的に障害学生支援・学生支援に関わる教職員が出席するかたちで、平成 30 年 9 月に、ネットワーク発足のための第 1 回準備委員会が開催された。

準備委員会では、ネットワーク事業の方向性を検討するとともに、ネットワークの目的・事業・会員・運営委員会・総会に関する規約と、情報・支援ノウハウの共有に関する申し合せについての議論が行われた。

その後の第 2 回・第 3 回準備委員会（メー

ル審議）を経て、規約と申し合せを策定するとともに、準備委員会参加機関が初期会員となることで、平成 30 年度末（2019 年 3 月）に、山口県内の地域ネットワーク「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」が発足した。

- ▶ 準備委員会参加校：山口大学，山口県立大学，下関市立大学，山口東京理科大学
- ▶ 準備委員会開催状況

| | 開催要領 | 開催日 |
|-------|---------|-------------|
| 第 1 回 | 会場：山口大学 | 2018 年 9/3 |
| 第 2 回 | メール審議 | 2018 年 11 月 |
| 第 3 回 | メール審議 | 2019 年 2 月 |

3.2 設立趣旨

当該ネットワーク事業の設立には、平成 28 年度に施行された「障害者差別解消法」などの影響により、高等教育機関における障害学生への支援の必要性が高まっているという背景がある。山口県内でも、各高等教育機関では、各々が現実的な対応を模索しているが、支援技術の質の担保、機材の不足、財源の確保や人員配置の面からも対応に苦慮している大学等も多いと思われる。

これらの課題に対して、個人情報を保護しつつ、支援に関する実用的な情報交換・ノウハウの共有は有効な手段のひとつとなると考えられる。また、県内の支援機関に関する情報など、地域特性を踏まえた情報共有や、共同での支援実施等が可能となれば、1 つの大学のみでは対応が難しいケースに、複数機関で連携して対応することで解決が見込める可能性がある。

これらを踏まえ、県内高等教育機関の障害学生の修学支援担当者間、ならびに関連機関との情報共有・連携体制を構築する趣旨で「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」は設立された。

3.3 設立状況

当該ネットワークは、事務局を山口大学学生特別支援室におき、設立時会員として県内国公立大学が加盟している。

主な事業は、(1)障害学生修学支援の情報・支援ノウハウ・支援技術・人材等の共有、(2)関連する研修やセミナーの開催、(3)障害学生修学支援に関する県外の高等教育機関等や、他ネットワークとの連携、(4)山口県内の行政機関や福祉機関等との連携である。

- 設立日：2019年3月6日（水）
- 設立時会員：山口大学、山口県立大学、下関市立大学、山陽小野田市立山口東京理科大学
- 事務局：山口大学学生特別支援室
- 運営委員長：山口大学学生特別支援室長

3.4 活動状況

ネットワーク発足から、情報共有・相談のトライアルを行いながら、同時にネットワークのプロモーション活動として、山口大学学生特別支援室のホームページ内に関連ページの開設、大学リーグや山口県内大学・高専学生支援連絡会加盟校にて広報を行った。

また、2019年9月10日にはネットワークの第1回総会を開催し、ネットワーク事業実施体制や活動計画を確認するとともに、各大学の支援体制・支援状況に関する情報共有を行った。情報共有では、支援の範囲や、相談対応状況、学内窓口の使い分け等に関する情報が寄せられ、各大学の特徴や支援上の課題等を確認することが出来た。

4 おわりに：大学間ネットワークの意義と今後の展望

本稿では、障害学生支援のためのネットワーク事業について紹介し、特に「やまぐち高等教育障害学生修学支援ネットワーク」の発足状況を説明した。

このネットワーク事業は、山口県内の大学・短大・高専の「障害学生支援担当者」間での、

情報共有を想定したものである。今後、まずはネットワークの基盤を整えつつ、支援に関する情報・支援ノウハウの共有を活性化させていきたい。そのうえで、事例の蓄積を図り、学校規模や校種、支援体制の整備状況を加味した情報共有・支援ノウハウの共有体制が構築できれば理想的である。

高等教育機関といっても、規模や校種、カリキュラム、大学の組織立などは異なり、それぞれの特徴がある。これらの特徴や違いを踏まえつつ、それを超えて共通して有効な情報共有したり、支援に関して担当者が議論したりできる場は重要である。各大学の担当者が、互いを知ったうえで信頼関係の上に交流・連携する意義は大きい。当ネットワークの会員が拡大し、有効な情報が増えるほど、連携体制は強化され、ネットワークの意義は増していくと予想する。

特に山口県は、支援リソースが分散しているという特徴がある。例えば、視覚障害者教育センター・聴覚障害者支援センターは、県内を3エリアに分けて設置されているが、点字図書館は山口市後河原に、山口県聴覚障害者情報センターは山口市鑄銭司に、山口障害者職業センターは防府市に所在している。地域の支援リソースの掘り起こしを行いつつ、有用なリソース情報の共有ができれば、支援のためには大いに役立つであろう。

本ネットワーク事業では、各大学の障害学生支援担当者間の情報・支援ノウハウの共有から始まっているが、将来的に、各大学の障害学生支援の底上げと、地域の支援基盤整備に資することができれば幸いである。

(学生支援センター 学生特別支援室
准教授)

(教育学部 准教授

・学生支援センター 学生特別支援室室長)

(学生支援センター 学生特別支援室
カウンセラー)

(学生支援センター 学生特別支援室
カウンセラー)
(学生支援課 事務職員)

【参考文献】

障害を理由とする差別の解消の促進に関する法律

山口大学学生特別支援室ホームページ,

<http://ssr.ssc.oue.yamaguchi-u.ac.jp/>

日本学生支援機構ホームページ「障害学生修学支援ネットワーク」, https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shien_network/index.html

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) ホームページ, <http://www.pepnet-j.org/>

高等教育アクセシビリティプラットフォーム (HEAP) ホームページ, <https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/>

教育のユニバーサルデザイン化ネットワーク (UE-Net) ホームページ, <https://ue-net.jp/web/>

一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協会 (AHEAD Japan) ホームページ, <https://ahead-japan.org/index.html>

アクセシビリティリーダー育成協議会ホームページ, <https://al-pc.jp/web/>

山口県ホームページ「視覚障害教育センター・聴覚障害教育センターについて」, <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a503001/condition/shikakutyokaku.html>